

9. 知らない方が良かったとはならないのが災害リスク

自然災害は突然に想定しないことが起きるというドッキリものですが、先人を含めて多くの災害を経験してきていることとはいえ、いまだにその対応となると被害の進化に勝てません。それには様々な背景があるのですが、そのような経験の中から生まれた教えとか反省が災害のたびに繰り返されていて、さまざまな言い方があります。どれも被害や犠牲につながったものです。

「あわてるな、正しい情報で行動を」「出るな、あぶない、飛び出すな、避難は家で良い時もある」「普段できないことは、災害時でもできない」「都合の良いことは起きない、大丈夫は危ない考え、周りを気にするな!」「まえぶれに敏感になれ、普通でないと思ったら避難行動」「外の様子を見に行くのは死出の旅」・・・・・・・・

自然災害を何とか無事にやり過ごすには、その時に正しく判断して適切な行動ができるということです。そのためには、正しい知識と、地域について精通していることで、発生時にその先を読み取ることができるかどうかだと思います。日本列島では自然災害のリスクはどこにでもあるし、ましてそのリスクはますます複雑化しているともいえます。

そのために、以下の3つのことを考えてほしいと思います。一つ目は災害に関して関心や意識を持つことです。災害はどこかで毎年起きていますので、それを対岸の火事だと思わずに、わがこととして関心を持ってほしいと思います。同じようなことは起きないにしても参考になる事例であることは間違いありません。十分経験したことと同じ意味があると思います。二つ目は、防災をテーマにした講習会や研修会は様々な期間に開催されていますので、自分は大丈夫と思わずに参加することです。内容にもよりますが、日常の暮らし方や外出した時の用心にも関心を持つことができますので、家に帰ってからみんなで話しあう機会になれば有意義なことになります。三つ目は地域で話し合う機会を持って議論したり話し合ったりするということです。できれば地域でそのような機会を持てるように提案するというのも大事なことです。災害へのそなえには、正解はありませんし、地域の特性や家々の事情等もありますが、情報を共有したりして話すということが、いざとなった時の大きな頼りになる事は間違いありません。

防災への対策は専門家が一方的に知識を伝達するのではなく一人一人の住民の感覚が基本で日常の生活の中で醸成していくべきものです。防災への取り組みをされている方の提言に、災害への備えとして「正解のない問いを発信しあい、みんなで考える」といった取り組みは防災リテラシーを高め、地域のコミュニティーを強くすることにつながるということを話されています。防災リテラシーとは地域における災害リスクを理解して、日常的な備えに関心を持ち、いざというときにより適切な判断ができて、周囲との協力体制になれるということです。また、正解のない問いとは、大雨で避難指示が出た時に、だれとどこに避難するか、小さな地震が頻発している時にどう対応したらいいのか、ほんとうに自分だけで適切な判断ができるのだろうかというようなことで、これをを話し合っておくことは、得する防災リテラシーへの一歩前進になるのではないのでしょうか。